

## なぜホロコーストが起こったのか

2010年4月11日 アシェル・イントレーター

この月曜日(4月12日)はイスラエルではホロコースト記念日です。私たちが自分の民に福音を語ると、よく反発を受けます。「ホロコーストゆえに私は神を信じない。」

この質問に対し、聖書からの答えを簡単ですが調べてみました。

1. **普遍的な罪** - 神は世界を完全なものとして創られました。世界に悪が始まり、今も続いているのは、人類の罪であり、従うことを拒否したからです。(創世記 3章)この世の苦難について非難されるのは神ではなく、人類なのです。ピラトによって殺された人々は他者よりも罪深い人々であった訳ではなく、全ての人々が悔い改めなければならないと(ルカ 13:1-5)イエシュアは例を挙げています。人はそもそも「良い」のではなく、より良いモラルの状態へと徐々に発展を遂げるものでもありません。全ての人々は罪を犯したのです。ホロコーストは、人類は罪人であり、悔い改めと恵みが必要であるという聖書的な視点の大いなる証拠なのです。
2. **ユダヤ人の罪** - 驚くべきことに、ホロコーストはモーセの律法にまでさかのぼって預言されているのです。レビ記 26:33、38と申命記 28:63-64 はユダヤ人の離散と大変な苦しみを私たちの罪に対する罰として語っています。
3. **異邦人の罪** - ユダヤ人の離散と苦難は神からの罰と認識されますが、ホロコーストで起こったことの大半と、反ユダヤ主義に関する多くの事例については神が定めたものでは決してありません。神は私たちの罪ゆえに諸国へと離散させましたが、異邦人が私たちにした事は彼らの罪なのです。ゼカリヤ 1:15 「しかし、安逸をむさぼっている諸国の民に対しては大いに怒る。わたしが少ししか怒らないでいると、彼らはほしいままに悪事を行なった。」神はユダヤ人自身の罪ゆえにまず彼らが離散したことよりも、異邦人の反ユダヤ主義に対して、より怒っておられるのです。
4. **置換神学** - ローマ書 11章にユダヤ人が継続して選民であるという神のご計画について述べられています。しかし、これは中世のカトリック教会と宗教改革時のルターによって否定されました。クリスチャン神学の中でユダヤ人の選民性の否定はクリスチャン諸国の中で反ユダヤ主義が正当化されることになりました。現在、ほとんどの真のクリスチャンは反シオニズムと反ユダヤ主義を否定しましたが、置換神学の誤りが、ホロコースト時に多くのクリスチャンが沈黙させてしまっただけでなく、ある者はナチズムの活動をも行っていたのです。

5. **メシアを否定する** - メシアの降臨はイスラエルと諸国にとって祝福となります。私たちがイエシュアを拒絶したことにより、祝福が呪いとなりました。ルカ 19:44 「そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」私たちは結果として自身を呪ってしまったのです。(マタイ 27:25)。
6. **ラビたちはシオニズムを否定した** - 現代のシオニズムにおける最初のアリヤー(帰還の波)は 1881 年、ホロコーストの約 60 年前に始まりました。神はユダヤ人に対してヨーロッパの危険な場所から離れ、アメリカかイスラエルへ行くよう呼びかけられたと私は信じています。それを聞いた人々は救われました。不幸にも、東ヨーロッパのラビの指導者は、シオニズムは偽のメシア主義だと徹底的に反対し、それに従わないようにと人々に伝えていました。結果として、多くの宗教家たちは残り、殺されました。
7. **人間中心主義者はシオニズムを否定した** - 1897 年にテオドール・ヘルツェルはユダヤ人国家について説き始めたのは、アルフレッド・ドレフュス大尉の件で反ユダヤ主義を目撃した後でした。西ヨーロッパにいた多くのユダヤ人改革主義者はアメリカまたはイスラエルに移動していれば、ホロコーストの恐怖から救われたはずなのです。彼らは豊かさに惑わされ、改革主義で世俗的、人間中心主義という嘘に惑わされ、危険が迫っていることを否定したため残ったのです。現在も同様に「政治的に正しい」ことが、イスラムの聖戦の手による現代のホロコーストという脅威に対し、ユダヤ人国家の基本的防衛に反対する立場を取っているのです。
8. **義人の苦難** - すべての世代において義人は苦難を受けます。ある意味社会が高潔な価値観を持っている場合、義人は報いを受けますが、ある意味社会がモラル的価値観を失った時、義人は苦難を受けます。Ⅱテモテ 3:12 -「確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」義人はカインとアベルの時から、預言者とイスラエルの父祖たち、そして現代のイスラム世界に住むクリスチャンに至るまで苦難を受けます。毛沢東下の共産主義の中国では、ナチスよりも多くの人々を大虐殺しました。トルコ人はアルメニア人「ホロコースト」によって、多くのアルメニア人を殺害しました。
9. **選民の苦難** - メシアとしてのイエシュアの十字架と、選民としてのユダヤ人の苦難には、不思議な類似があります。私たちの民は罪ゆえにイエシュアを否定しましたが、それは啓示の一部「おまえの目から隠されている。」(ルカ 19:42)からです。離散は罰だけでなく、「救いが異邦人に及ぶ」(ローマ 11:11)という神の目的があったからです。離散とユダヤ人の苦難は異邦人に対するあがないの側面を持つのです。これは、宣教師や伝道師が福音を語る時の苦難と類似しているのです(コロサイ 1:24)。

10. **再臨に反するサタン** - アダムとイブの罪の後、神はサタンを滅ぼす「種」をもたらすと約束されました(創世記 3:15)。その種はイエシュアです。主はアブラハムの子孫として来られたのです(創世記 22:18)。それゆえ、サタン的な勢力(ファラオ、ハマン、そしてヘロデのような)は常にユダヤ人を殺そうとしました。これらのユダヤ人に対する攻撃は、イエシュアが生まれた時に終わるはずでした。しかし、イエシュアは初臨と同様に再臨を含める約束へと拡大されました。マタイ 23:39 「あなたがたに告げます、『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」ホロコーストとイスラムの聖戦はメシアをこの世界にもたらず終わりの時の神のご計画を成就するユダヤ人を防ごうとするサタンの試みなのです(その時悪魔は幽閉されるのです[黙示録 20:2])。